

令和5年度 第3回 認知症施策推進に関する会議（オレンジ会議）
（書面会議）構成員からの意見

■構成員からの意見

北九州市しあわせ長寿プラン素案に対するパブリックコメント実施結果等について

計画全般に関わるもの	<p>○障害者、高齢者、児童、地域などの各施策が重層的支援として相互に関連性がより深まる事を希望する。</p> <p>○高齢者の方の役割・やりがいを奪わないでほしい。（高齢者の方自身ができることはご自身でやっていただく）</p> <p>○高齢者が楽しいと思っていない可能性がある「折り紙」、「ぬり絵」、「童謡を歌わせる」などを安易にさせないでほしい。（これらをさせればいいと安易に考えない）</p> <p>○高齢者を「監視」ではなく「見守る」ようにしてほしい。</p> <p>○高齢者が子どもたちと関わり持てる仕組みを作ってほしい。（高齢者にとっても子どもにとってもメリットが大きい）</p> <p>○施設で働く方々の労働環境, 給与、誇りを持てる仕事するなど改善などを意識して、より住みよい社会作りに邁進してほしい。</p> <p>○令和5年9月26日に行われた60周年記念シンポジウムは大変良かった。準備も大変だったと思う。</p> <p>○パブリックコメント10の回答について:平易な言葉で記述するのは大切な視点。良い指摘で、修正して良かった。</p> <p>○数年前に開設したグループホームの近隣の理解。まだまだ市民への理解は悪いと感じた。その経験を踏まえて、認知症が理解される周知と啓発活動が大いに必要だと感じている。市民を対象とした行事、イベントがさらに広まることを期待し、関わる団体とコラボができないか検討の余地ありと意見する。</p> <p>○「北九州市しあわせ長寿プラン」について、多くの人に知ってもらう事が重要だと感じた。</p>
------------	---

<p>計画全般に関わるもの</p>	<p>多くの人の目につくよう、年齢関係なく知る機会が必要だと感じる。また、元気な高齢者への支援の充実も必要だと感じる。健康な状態の頃から支援を行うことで、病気になった時、本人の不安やサポートする家族の不年を減らせると思う。</p> <p>○北九州市しあわせ長寿プランに沿って、行政、地域、医療、企業、学校などがよりいっそうの連携を図り一体となって、各事業に取り組んでいくことがとても重要だと思う。</p> <p>幸福感の高い高齢者割合の和 8 年度目標 55%達成し、幸福長寿モデル都市としての北九州市を確立したい。</p> <p>○健康寿命の延伸は幸福度に大きく影響されることが様々な調査などから明らかになっていることから、「しあわせ長寿プラン」という名称はとても分かりやすくよいと思う。</p> <p>また、幸福を感じるための目標を「健康で長生き」「人とのつながり」「自らの意思で決める」としたことは全体の取り組みを進めて行く上での大事な指標としたことで 3 つの目標がとてもわかりやすかった。</p> <p>以前、目にしたことのある幸福度に関する調査研究などでは、交流人数、所属団体、地域活動など地域活性化とつながる項目の各ポイントが高い人ほど健康寿命が長くなる傾向にあるという結果であった。特に「自らの意思で決める」ことは自分らしくいられるという安心も生みだされるだけでなく、対応できる支援や環境づくりなど取り組みに支えられているとも言える。その地域に住むことの幸福度は支援制度との相関性が高いとも言われている。各施策に掲げられている支援制度の充実にも期待している。</p>
<p>目標1 目指そう 活力ある100年 ～健康長寿～</p>	<p>○パブリックコメント 32 の回答について：「貢献寿命」は、次のフェーズになるのか。全てのお年寄りが不安なく、幸せに長寿を謳歌できるようになる目途がたってからになるのか。「何歳になっても社会と関わりたい。誰かの役に立ちたい」という気持ち、行動は幸せな都市づくりにおいても重要な視点なので次プラン策定にはぜひ盛り込んでほしい。</p> <p>○今後は生産人口が減少する一方で働きたい高齢者も増えることから、企業にも理解を深めてもらい。働く人に予防の重要性を認識してもらおうとともに、企業には就労継続に取り組んでもらい人材不足の解消にも繋げたい。</p>

<p>目標1 目指そう 活力ある100年 ～健康長寿～</p>	<p>○地域包括ケアシステムを深化・推進を図り、身近なところで誰もが気軽に相談できる体制づくりにも取り組んでいかなければならないと思う。</p>
<p>目標 2 人情息づく支え あいのまち ～地域共生社会～</p>	<p>○地域のウェルビーイング人材の育成については、年長者研修大学校などによる人材の育成に加えて、地域活動者の育成やボランティアなどの活動希望者を活動につなげるマッチングを行なっている生涯学習総合センターとの連携もあっていいのではないかと思う。 昨年度は、社会教育委員会議でも地域の中での健康づくりが議論されていた。その中で地域での健康づくりの拠点としての市民センターの役割も議論されていた。 人材の発掘、育成に効果的に取り組むうえで生涯学習とのかかわりも欠かせないのではなかと思う。また、市民センター館長研修にこのプランの周知と理解のための研修を取り入れることも必要と考える。</p> <p>○本人の意思決定について(施設入所、住替え、サービス利用等)認知症の人は言語による意思表示が上手くできない事が多い。本人の示した意思、それが他を害する場合、本人のリスクがある場合でない限り、尊重される。 家族、周囲の判断や意向等で入所、サービス利用した事で、後にトラブルになる事も多い。 認知症の要介護者と同居している家族に対する支援や地域への配慮と協働の必解性もあり厚生労働省の意思決定ガイドラインを参考に北九州市独自のリーフレットを作成しては。(介護従事者、ケアの専門職、地域市民向け)</p> <p>○独居の認知症高齢者も多く、地域力が必要。地域住民の理解を求めていく事も必要となる。フォーマルのみならず、社会資源を活用、地域ケア会議においても複数事例による地域課題を抽出し、解決方法や実施について検討した事などを報告して欲しい。</p> <p>○施策 2-3 人材育成について、介護従事者に対し認知症対応力向上研修は、現在職能団体が委託を受け実施していると思う。年に1回丸一日の研修と記憶しているが、研修の参加が出来にくいとの意見もよく聞き取り、北九州市独自の向上研修を日程調整(年に数回、時間調整)して企画取り組みを希望する。</p> <p>○OP66 認知症サポーター養成の取り組みと講座受講者数の増加がみられ広く理解していただくことは素晴らしいと思う。今後着成講座を</p>

目標 2
人情息づく支え
あいのまち
～地域共生社会～

受講するだけにとどまらず継続的にそのサポーターを活用していくのかを考え、具体的な予定や計画が文書にあれば良かったと思った。また、随分前に受講した人のフォローをどうしていくのかも合わせて気になった。

○地域包括支援センターや、まちかど介護相談に行けない方、認知症・介護家族コールセンターにも電話相談できない方のために、ICT 技術を活用した介護相談体制を早急に構築してほしい。特に若いケアラーは、メールやチャットなど相談しやすいと思われるので、是非、そのための人員配置をしてほしい。

○認知症サポーター養成講座の応用編を受講された方には、地域で認知症の方や家族を見守り支援するサポーターチームになる体制を作っていたらいいと思う。モデル事業が始まっているのであれば、全市に広げてほしい。

○北九州市しあわせ長寿プラン～幸福長寿モデル都市を目指して～の最終案については充分理解できた。このプランをどう具体化していくかが私達皆なに問われている。絵にかいた餅にならない様にしないといけない。

○パブリックコメントで、北九州市の保健・医療・福祉などの高齢者施策について、広報・啓発などの情報発言が充分でないという意見があったが、認知症に関しては、認知症啓発月間において、市民に広く知ってもらうための講演会を開催したり、市立図書館ではブックフェアを開催したり、ホームページで最新の情報を発言したりといろいろ工夫していると思う。引き続き、地域社会、医療機関や企業、学校などと連携し、あらゆる広報手段を利用して情報発言に努める必要があると思う。

○多世代交流についての意見もあったが、高齢者と幅広い年代との交流は重要であり、認知症についての意識向上や予防につながる。市内の高校や大学と連携し交流する機会を創り、認知症を知るきっかけになればと思う。

若いうちから認知症について身近に感じてもらうことは重要だと思う。

○認知症サポーター養成講座を受講した方が地域にも増えてきた。理解がますます進むことを願っている。更にステップアップ講座を増やし

<p>目標 2 人情息づく支え あいのまち ～地域共生社会～</p>	<p>ていくということなので、受講者の把握や活躍の場を作っていく取り組みも地域でできるようになればいいと思う。社会福祉協議会だけでなく、地域で GO!GO! 健康づくり事業の中でも取り組み、幅広い年代への啓発や受講者の活躍の場を作っていくことができればと思っている。</p> <p>○介護者のサポートのための重層的な施策には安心感を持てる。様々な取り組みがあることを当事者に伝えることができるように、また、早期に支援することができるように、民生委員の研修などの充実も大切だと思う。</p> <p>○パブリックコメント 72 の回答について：市立男女共同参画センター・ムーブでケアメン講座を開催するようになって何年も経つが、まだ PR が足りていないのか。全国に先駆けて取り組んだテーマ、講座であり全国から視察にも来ていた。ムーブと連携し、もっと PR した方がいいのではないかと思う。</p>
<p>目標3 選べる自由が感じられる 多彩なケア ～安全・安心・自己決定～</p>	<p>○パブリックコメント 78 の回答について：人材育成も大切な視点。ロボットなどを導入するにしても、「人」が「人」を介護する基本は変わらないので、「しあわせ」を感じるのも「人」に支えられてこそだと思う。</p> <p>○パブリックコメント 115 の回答について：日ごろ歩く人からの鋭い指摘がある。ベンチ設置は基本計画に盛り込みつつ、企業からの寄付（〇〇工業しあわせベンチ、などと命名して）を募っても良いかもしれないと思う。企業は投資家や消費者から ESG 経営を求められているので「しあわせ長寿」都市への社会貢献につながるかもしれない。</p> <p>○介護事業者に対する施策の充実、支援策の拡大を図る必要があるのではないか。介護事業者においては、慢性的な人材不足（若者の高い離職率）が続いている。</p> <p>特に小規模事業者は、賃金上昇や物価の高騰などで経営を取り巻く環境は大変厳しいものになっており、このままではサービスの低下につながる懸念があるばかりか、事業継続に支障をきたす可能性がある。すでに支援策があるかもしれませんが、例えば ICT や AI、ロボットの導入に関する補助金や先進的、革新的な取り組みに対する支援策など、北九州市独自の支援策を実施するなど。（介護、保育などの福祉関連業種は特に優遇）</p>